

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		釜石市すくすく親子教室				公表日	令和8年3月13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			・利用児が少ない場合、仕事内容の打ち合わせが必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・整理整頓を心掛け、ひとりひとりに優しい環境づくりを図った特性に合わせてできるだけ環境を整えるようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1		・幼児用の施設の印象があるので小学生、高学年には合わない所があると思う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・振り返りで児の姿を共有し、部屋の確保、空間の取り方に配慮している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・業務を行う上で意識し目標にして取り組んでいる。振り返りの定着を心掛けた。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・改善できる方法を試行錯誤しながら、丁寧なかかわりができるよう努めた。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1 未回答1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1		・療育の仕方を再確認できる環境があればよい。（教室内でどのような療育が行われているかみられる機会や話し合える場があると具体的な支援方法がわかるのでは）	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		日々の様子から想定されることを引き出して分析するよう心掛けている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			・それぞれ口頭での共有になっているため、共通理解や検討のできる機会があるとよい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			・児発、放デイ等問わず職員間の共有の場があれば見方が広がり具体的な支援につなげられると思う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		・全体で検討する機会があればよい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・月担当を中心に立案し設定している。年間を通して行う予定の行事についても月担当が計画を立てている。	・協力体制を整えられるよう丁寧な打ち合わせが必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・打ち合わせや振り返りでの意見は真摯に受け止め、個に合わせた支援や改善策を提案になるよう相談と工夫で対応するように努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・打ち合わせは習慣化している。課題部分を共有しながら手立てを考え支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・時間を確保し課題点やこれからの支援の方法について共有できるよう分かりやすく伝える努力をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・正確さを保つためにもその日のうちに記録する努力をしたが時間が取れないこともあった。 ・課題で見えてきたことには手立てをいくつか考え改善に努めた。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・活動する場所や遊びの内容など予定表や視覚提示で丁寧に知らせるようにした。 ・いろいろな場面で自分で選んで決めることを取り入れている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・情報共有しながら行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4		・療育センターの研修会は発発の内容だったため、放デイの内容についての研修機会があるとよい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	・お便り配布や児童館に遊びに行く機会を設けている。 ・公民館や児童館には数人で訪問し、活動場所の提供をいただいている。	・公民館や児童館を訪問はしているが、子どもとの関わりはもつことができていない。 ・地域住民の皆さんとの交流が出来るような計画を検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・共通理解が持てるよう丁寧にお伝えするよう心掛けた。	・課題の捉え方には歩み寄りが必要である。複数のスタッフで関わるとよい。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			・支援の内容については丁寧な説明を心掛けるようにした。報告はその都度行うようにしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			・時間をとり丁寧な対応に努めた。ひとりで抱え込まないためにも専門家の助言や研修等は定期的にあるとよい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2		・放課後等デイサービス利用保護者にも「父の会」の参加を呼びかけ、交流の場の提供を行っていく予定である。きょうだい同士で交流する機会もつことができていない。 ・すすくっこ祭りでは保護者や兄弟と触れ合う場面はあるが交流まではできていない。交流支援の実施に向けて話し合いをするには、職員間で方法を共有したり年間の予定等まで提案できるとよい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			・真摯に受け止め職員全体で共有できるよう報告している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			・自分の考えのみで行動せず上司等に相談したうえで慎重に取り扱うよう配慮している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			・行動を想定し公平な対応になるよう心掛けている。保護者からの話には丁寧な対応をするようにしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		・コロナ感染症の影響で行事に地域住民を招待することはなくなったが、すすくっこ祭りでは招待の幅を少しずつ広げているので次第に地域住民も招待できると思う。 ・行事の手伝いをしたり、すすくく便りの配布は行っているが、施設内に入ってしまうことは難しい。 ・地域施設行事で地域の方と触れ合うことはできたが、招いて交流する機会は未実施。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			・定期的な聞き取りを新しい情報に更新すると安心。その都度共有機会を設けていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		・おやつ提供のみ実施。医師の診断書などは提出していないが、保護者への確認は行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			・長期休みの際には利用人数が増えたり、期間のみの利用児があることから、その時期に合わせた訓練実施があるとよい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			・マチコミ等で随時連絡を行っている。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットが起こった場合は都度報告共有をしている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1		・各自の振り返りのためにも質疑応答のある研修が行われるとよい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1		・身体拘束の理解を深めるためにも、職員間での勉強会があるとよい。施設としての対応方法をさらに理解を深め共有しておきたい。